

NPO法人「自然塾  
寺子屋」と甘楽富岡農

# 「日本のお年寄り元気」

## 甘楽 カリブの研修員が稲刈り



村大学校が開く農業体験プログラムが、甘楽町上野の田んぼで開か

諸国の研修員

初めての稲刈りに取り組む中米・カリブ

れた。中米・カリブ諸国から来日して生活改善の先進例を学んだ研修員16人が日本の大学生や地元農家約60人と一緒に稲刈りを体験した。研修員は国際協力機構(JICA)筑波が2005年から毎年現地で募集。日本で農業振興の実例に触れ、同

諸国で取り沙汰される貧富の格差や農業の後継者不足の解決に力を注いでもらう狙いがある。今回は6週間の日程で来日し、茨城県つくば市を拠点に研修。北海道では大規模農業を見学した。18、23日は甘楽富岡地域に滞在し、比較的小規模な農業の営みに親しんだ。稲刈りは坂本龍馬の「船中八策」にあやかった若者向け農業体験プログラム「甘富八策」と意気込んでいた。パナマの国立機関に勤め、農村に暮らす人々の教育振興を担うイビア・カリリオさん(41)は研修を仕事に生かせると思いついた。「日本はお年寄りでも活発に働いていたのが印象的。学んだことを生かし、小さなことから取り組みたい」と意気込んでいた。